『　だいづる　』（　左義長　）　※は２回繰り返しです。

①　蝶よ花よ　　花よのねんね　まだ乳のむか　※乳首はなせ
②　春よ春よ　　こがれし春よ　花の勝山　　※弁天桜
③　夏よ夏よ　　こがれし夏よ　九頭竜川で　※鮎釣りよいぞ
④　秋よ秋よ　　こがれし秋よ　秋の勝山　　※こけ狩りよいぞ
⑤　冬よ冬よ　　こがれし冬よ　雪の勝山　　※スキーぞよいぞ
⑥　さあさおいで　集まっておいで　あなたも君も　※櫓の下へ
⑦　はたの勝山　おさの音響く　織りなす羽二重　※乙女の肌よ
⑧　さあさおいで　越前大仏　祈りを込めて　※世界の平和
⑨　恋の長山　あの松陰で　別れのつらさ　　※涙かつゆか
⑩　どんどどんど　夜空を焦がし　九頭竜に映える　※左義長じゃ左義長
⑪　浮かれ太鼓に　左義長ばやし　たすきも揺れて　※櫓も揺れる
⑫　みんなはやせ　陽気にはやせ　手拍子たたき　　※左義長ばやし

『　御大典（ごたいてん）　』

①　御大典（ごーたいてん）じゃ　御大典じゃ　お目出たい　御大典じゃ　御大典じゃ　お目出たい
　　男も　女も　御神酒（おみき）を祝うて　バンバンザイ

②　左義長じゃ　左義長じゃ　お目出たい　左義長じゃ左義長じゃ　お目出たい
　　男も　女も　御神酒を祝うて　バンバンザイ

『　戦友　』※②の元歌は「懲らしめた」ですが、「殺す」と聞こえるので保存会では「困らせた」と歌っています

①ここはお国を何百里　離れて遠き満州の　赤い夕陽に照らされて　友は野末（のずえ）の石の下
②思えば悲し昨日まで　真っ先駆けて突進し　敵をさんざん困らせた　勇士はここに眠れるか
③ああ戦いの最中に　隣に居ったこの友の　にわかにはたと倒れしを　我は思わず駆け寄って
④軍律厳しい中なれど　これが見捨てておかりょうか　しっかりせよと抱き起こし　仮包帯も弾の中
⑤おりから起こるとっかんに　友はようよう顔上げて　お国のためだかまわずに遅れてくれなと目に涙

『　こんぴら船々　』※②④の一部歌詞を「勝山」としています

①こんぴら船々　おい手に帆かけて　シュラシュシュシュ　まわれば四国　さんしゅう　なかのごおり
　象頭山（ぞうずさん）　こんぴら大権現（だいごんげん）　一つまわれば

②勝山名物　後生楽（ごしょらく）踊り　シュラシュシュシュ　踊らにゃ損だよ　夜明けのカラスの
　鳴くまで踊ろよ　左義長さん　一つまわれば

③巡礼お鶴は　菅笠（すげがさ）姿で　シュラシュシュシュ　訪ねる母様　お弓の涙よ
　我が子と言われぬ　胸の内　一つまわれば

④勝山深山（みやま）の　青葉の陰から　キラララララ　金のごへいの光がチョイと差しゃ
　街道（かいど）は雲切り晴れ渡る　一つまわれば

⑤こんぴら代参（だいさん）　ご存じ石松　シュラシュシュシュ　飲みねぇ　食いねぇ
　こっちへ寄りねぇ　死ななきゃ　治らぬこの気っ風（ぷ）　一つまわれば